



シャコバサボテン 新年導く「火の鳥」



あべ 菜穂子

そんな時、鉢いっぱい
燃えるような花を咲かせる
シャコバサボテンは、まる
で陰鬱な天候に挑戦するか
のように、いのちの炎を噴
いている。



国の冬を生きる人々の心
に、ポツと希望の灯りをと
もすのだ。

クリスマスのごころに満開
になるので「クリスマス・

カクタス」と呼ばれて人気
がある。室内観賞用にヨー
ロッパで改良が重ねられて
現在の形になったが、もと
もとはブラジル南東部の海
外沿いの高山で、木や岩
盤に根を下ろして成長す
る「着生植物」なのであ
た。



時間が伸びていくころ、長
い暗闇を感じ取って蕾を
つけ、開花の準備をするの
である。

この花は、闇を歓喜に変
えることを教えてくれる
(リン・S・シュワルツ
「クリスマス・カクタス」
より)

黒々とした真冬の闇のエ
ネルギーを昇華させ「火の
鳥」となった花は、翼を広
げて私たちを新年へと導
く。

(ロンドン在住ジャーナリ
スト、写真も)

年の瀬。ロンドンのわが
家の玄関のポーチで、シャ
コバサボテンが真っ赤な花
をつけている。
クリスマスが終われば、
イギリスは新年が来るまで
いたって静か。日照時間が
極端に短く、めったに陽の
光を見ることもできないこ
の時期、街は終日薄暗い
霞のなかにある。

絹のような花びらから長
い雌しべを突き出した姿は
ツルがいままさに飛び立た
んとする様子をほうふつま
せ、私には花がそのまま次
々と茎を離れてガラス張り
のポーチから戸外に飛び出
していきそうに思える。

赤いツルはほの暗い通り
をヒラヒラと舞い、窓から
住宅に入り込んで厳しい北
至に向かって日一日と夜の